

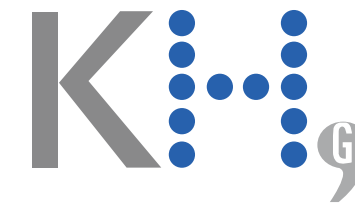
特集 **腹膜透析**

平成29年度事業計画

祝! 理事長 旭日小綬章叙勲
藍住川島クリニック起工式
あすか保育園完成へ

第7回 川島病院 市民公開講座

2016-2017 Photo Report



Kind 優しい

Honest 誠実な

Growing 伸びゆく

社会医療法人 川島会

●川島病院

●川島透析クリニック ●鴨島川島クリニック ●鳴門川島クリニック ●脇町川島クリニック ●阿南川島クリニック

社会福祉法人 飛鳥

●ケアハウス ●在宅介護支援センター ●デイサービスセンター ●ヘルパーステーション

川島ホスピタルグループ広報誌 第15号 2017年11月発行 発行/川島ホスピタルグループ

〒770-8548 徳島市北佐古一番町1-39 TEL.088-631-0110 FAX.088-631-5500

企画・編集/川島ホスピタルグループ広報委員会 川島ホスピタルグループホームページ <http://www.khg.or.jp> デザイン・印刷・製本/太陽高速印刷(有)



表紙写真：鳴門生まれのコウノトリ
今年、鳴門市大麻町で国の特別天然記念物コウノトリが誕生しました。兵庫県豊岡市以外では初めてのことで、明るい話題を県内に提供してくれました。これからも温かく見守っていききたいものです。

(撮影／川内秀喜)

Contents

Kawashima Hospital Group Magazine

2 特集 腹膜透析

- 10 患者インタビュー
- 12 川島ホスピタルグループこの10年
- 17 事業計画
- 18 祝 理事長 旭日小綬章
- 20 藍住川島クリニック起工式 あすか保育園完成へ
- 21 **BEST SHOT 今年の一枚** 撮影・川島 周 理事長

22 第7回 川島病院 市民公開講座 知ろう防ごう認知症

2016-2017

27 Photo Report

健康・福祉フェスタ・慰安旅行・とくしまマラソン・阿波踊り・BBQ・部活・サークル紹介

40 主な行事

41 2016-2017年資料編



Kind 優しい

Honest 誠実な

Growing 伸びゆく

私たちの病院の理念

- 1 患者さんをはじめ、関係する方々との信頼関係を築きます。
- 2 病院経営の質の向上に努め、良質で効率的かつ組織的な医療を提供します。
- 3 地域社会の健康および福祉の増進に貢献することを使命とします。

私たちの病院の基本方針

私たちの病院は

- 1 患者さんや家族の方々との信頼関係に基づいた、患者さんの立場に立った医療を提供します。
- 2 公正な医療の提供と医療の質の向上に努めます。
- 3 腎臓器疾患と糖尿病の診断と治療に総合的に携わる病院として地域の皆様に信頼していただけるよう、日々全力を傾注します。
- 4 患者さんに安心して医療を受けていただけるような良質な医療環境医療体制を構築します。
- 5 地域社会の一員として、また社会的存在として行動し、その責任を果たします。

腹膜透析は有用な治療法



川島病院 院長／水口 潤

腹膜透析は24時間連続で治療する比較的マイルドな透析療法であり、社会復帰や在宅医療をメリットとして普及がはかられました。またシャント作製や体外循環が困難な高齢者や心血管合併症例に対しても、シャントが不要でマイルドな透析である利点を生かし適応さ

れています。しかし、わが国では透析患者の大多数が施設での血液透析患者であり腹膜透析患者はわずか2・9%にすぎず、諸外国に比べて腹膜透析の普及率は極めて低い状況にあります。その要因として、腹膜透析カテーテル出口部感染やトンネル感染、腹膜炎、腹膜機能低下、被嚢性腹膜硬化症

など未だ未解決な部分が多い種々の合併症に加え、大学病院や基幹病院での若手医師に対する腹膜透析に関する教育不足や、腹膜透析の導入システムが整っていない施設では、透析療法開始時に腹膜透析に関する情報提供が十分に行われていないことも報告されています。



透 析

特集

腹 膜

- 院長／水口 潤
- 看護師長／西分 延代
- 看護師主任／森下 成美
- 看護師／小倉 加代子
- 泌尿器科医員／阿部 陽平
- 看護師／梶川 泰代
- 委員会の活動
- 患者インタビュー



より良い腹膜透析管理方法を求めて

私が初めて腹膜透析（PD）患者さんの看護に携わったのは、日本でPDが保険適応となった4年後の1988年頃でした。シングルバックの1日4回交換で、シャワー浴の際は出口部を絶対濡らしてはいけないと指導を受け、インジンで毎日消毒し、バック交換毎のPD排液量測定、記録が必要とされPDの自己管理は大変だなと感じた記憶があります。

それから数年後に川島病院にて再度PDに関わるようになりました。PDメーカー、バック交換機器等の種類が増え、PD液が改良され、PD治療が進歩していました。患者さん、その家族が行う管理は以前と変わっていませんでした。しかし水口院長の方針で、PD管理をシンプルにするために2007年頃からPD管理委員会のメンバーが中心となり次々と改善への取り組みが行われました。シンプルなPD管理とは、簡単でいいとい



川島手法で様々な工夫を

川島病院 院長／水口 潤

川島病院では、高齢化する透析患者さんや在宅医療にとつて有用な治療法であると考え、その普及に積極的に取り組んでおります。保存期腎不全患者さんには必ず血液透析、腹膜透析、腎移植の情報提供を行うことにより、それぞれの治療法の特徴を理解していただこうと治療法を選択していただいています。腹膜透析を選択した場合には、患者ならびにそれを支える家族の負担軽減や、透析を行っていない病院や施設での受け入れを目的として、腹膜透析の簡素化が重要であると考え様々な工夫を行っております。透析患者さんの高齢化に伴い、自宅では介護困難な腹膜透析患者さんも増加しています。このような患者さんに対しては、腹膜透析を受け入れ可能な施設との連携も深めています。さらには次世代を担う若手医師育成のため、腎臓内科医、泌尿器科医それぞれ3名を受け入れ、腹膜透析患者の担当医

として、内科系・外科系の分け隔てなくカテーテル留置術も含め教育を行っております。また日本腹膜透析医学会医師、看護師CAPD教育研修医療機関に指定され、看護師さんの教育にも貢献しています。一方、徳島県透析療法研究会では、腹膜透析の導入システムを持たず、カテーテル留置術や導入を行えない透析クリニックや、血液透析施設をもたない医療施設でも腹膜透析が行えるよう徳島PDネットワークを組織しています。これは徳島県内の基幹施設が中心となり、腹膜透析の導入・コンディショニング・合併症治療は基幹病院で行い、普段の医療は協力施設で行うシステムであり、我々の施設も積極的に参加し活動しております。このような活動により川島病院では血液透析患者さん約1000名に対し、腹膜透析患者さんは約100名であり、腹膜透析の普及率はわが国での普及率の約3倍となっております。



看護師長／西分 延代

うだけではなく安全性が重要であり、そのためにデータを集めて検証を重ね、当院におけるPD管理方法としていくつか変更されました。

まずPD出口部管理方法としては消毒をするのではなくしっかりとシャワーで洗い流すことが基本となりました。そしてガーゼ保護をやめることで、絆創膏による皮膚かぶれがなくな

り、出口部感染も減少しました。体液管理においては、除水量の把握は大切ですが、浮腫の状態観察、体重・血圧の変動を確認することが重要であり、PD注排液量を計るのは体調が不安定なときだけ実施という方針に変更されました。このようなシンプルなPD管理への取り組みは、毎年開催される日本腹膜透析医学会にて発表され、県内外のPDに関わる看護師から研修依頼が増え、現在では川島病院「シンプルPD」と認識されつつあります。シンプルかつ安全にPDが行えることは患者さん、その家族の負担が軽減されることを考え、今後も患者さんの目線に立ち、安心してPD療法が継続でき、普段通りの生活を送れるよう支援していきたいと考えています。

訪問で生活に
密着した看護を

訪問看護とは、病気や障害を持った人が住み慣れた地域や自宅でその人らしく療養生活を送れるように看護師等が生活の場へ訪問し、医師の指示のもと看護ケアの提供、療養生活を支援するサービスです。

2015年に川島病院訪問看護室が開設され、当院で治療されている患者さんの訪問看護を開始しています。特に腹膜透析療法（PD）は自宅で患者さん自身やご家族が管理し、毎日継続していかねばなりません。導入時は入院中に看護師からPDの操作方法や管理、注意点などを説明し習得して頂いていますが、いざ退院となると負担に感じたり、不安も多いことと思います。そのため、退院の際にご自宅を訪問し、PD器材の設置場所や治療環境の確認、バック交換手技、出口部ケアの実

際を見せていただき、アドバイスさせていただいております。お話しだけでは分からなかったことも、実際の治療場所を見せていただくことで、より患者さんの生活に即したアドバイスが可能となっております。そして、患者さんが抱える不安や生活をするうえでの問題などは、患者さんと医師、外来看護師との橋渡しとなり、継続したサポートができるよう努めています。

また、患者さんのご希望も含め、医師が訪問看護を必要と判断した場合は、訪問看護を継続し療養生活を支援させていただきます。

最近では退院後施設入所を余儀なくされる方も少なくありません。PDをしながらの施設入所に不安を感じる方もいらっしゃるかもしれませんが、訪問看護はこうした施設にうかがうことも可能です。そうした時には施設看護師の方と連携をとりながらご自宅同様安心してPDが継続できるようサポートさせていただきます。当院併

設の透析センターでは、血液透析、腹膜透析、腎移植について情報提供し、3つの治療法の中から患者自身・家族間でよく相談して治療選択をして頂きます。医師から透析の必要性について説明があり、その後、看護師が面談を行うとともに、治療選択のDVDを見て頂きます。また、時には腹膜透析（PD）をされている方に直接お話しが聞ける機会を設け、個々に適した治療選択ができるよう支援しています。4回交換のCAPD、機械で行うAPD/CCPD、自動切り離し・接続機など、色々な方法を情報提供致します。PDは、体にやさしい治療方法であり、高齢で心臓への負担を軽減したい方などには、積極的に勧めています。治療は複雑で面倒というイメージがありますが、当院は、省ける手間は省き、安全で簡便なシンプルな方法を推奨しています。スタッフもPD専任制は取らず、全員が関



設のケアハウス飛鳥に入所しながらPD継続されている方がいらつやいます。施設は川島病院

透析室と2階でつながっており、バック交換が自身でできない場合も、訪問看護師や、川島病院透析室の看護師によるバック交換を受けることでPDの継続が可能です。

訪問すると「来てくれるの待ってたのよ」と笑顔で声をかけていただき、訪問看護師にとっちはうれしい瞬間です。患者、家族の皆様と一緒に考えながらより良いPDライフの継続に向け「待つてもらえ

る」訪問看護をめざしてがんばっていきたく思っています。



看護師主任／森下 成美

外来通院患者への指導

外来腹膜透析

腎不全になると透析治療が必要となります。当院では、血液透析、腹膜透析、腎移植について情報提供し、3つの治療法の中から患者自身・家族間でよく相談して治療選択をして頂きます。医師から透析の必要性について説明があり、その後、看護師が面談を行うとともに、治療選択のDVDを見て頂きます。また、時には腹膜透析（PD）をされている方に直接お話しが聞ける機会を設け、個々に適した治療選択ができるよう支援しています。4回交換のCAPD、機械で行うAPD/CCPD、自動切り離し・接続機など、色々な方法を情報提供致します。PDは、体にやさしい治療方法であり、高齢で心臓への負担を軽減したい方などには、積極的に勧めています。治療は複雑で面倒というイメージがありますが、当院は、省ける手間は省き、安全で簡便なシンプルな方法を推奨しています。スタッフもPD専任制は取らず、全員が関

いつでもご相談を

われるよう、研修を受けたスタッフを中心に、後輩へ指導・教育をしています。また、当院の特徴として、PD専門外来は設けていません。一般の腎臓内科で、1ヶ月に1〜2回定期受診として頂きます。在宅（施設）での体重、血圧の変化を管理手帳に記載し、診察時に持参してもらい、浮腫の有無、カテーテル出口部の状態と併せて、PDが問題なく管理出来ているかを判断して頂きます。外来看護師は、日常生活の状況をききながら、疑問に思っている事や不安などがなければ尋ね、話しやすい環境作りを心掛け、アドバイスをしています。また、維持期になると、交換手技が自己流となりがちです。手技による腹膜炎予防のためにも、定期的に交換手技を確認しています。PD療法は、基本的に在宅で行う治療であり、



血液透析（HD）に比べると孤独です、そこで、患者同士でコミュニケーションをとる機会になればと、患者交流会を1年に1回開催しています。医師・看護師・栄養士等による・ミニレクチャーの後、治療上での不安や工夫、旅行や日常生活の楽しみ方等をぎくばらんに情報交換できる場としております。これからも、少しでも皆様のPD療法が無理なく、安全に継続できるように一緒に考えていきたいと思っております。外来に来られた時、ご相談など気軽に声をかけて頂けるようお待ちしております。



看護師／小倉 加代子



看護師／梶川 泰代

当院はCAPD指導看護師の研修機関として、日本腹膜透析医学会より認定を受けています。研修は1・5日のスケジュールで年に4回程度行い、徳島・四国内のみならず遠方からも研修に来られています。

当院の特徴的な「シンプルPD」の紹介や、PDカテーテル挿入術の見学、PD導入時の看護師の関わりなど、座学よりも手技やPDの実際を体験していただくことをモットーに研修プログラムを工夫し、当院のPDへの関わりをありのままにお伝えしています。

研修に来られた方からは「なかなか見る事の出来ない手術を見学できて良かった」「シンプルPDを自分の病院にも取り入

れていきたい」などの感想をいただいています。

研修を受け入れる私たちも、他施設のPD看護や取り組みを知ることができ、良いディスカッションの場となり、一緒に勉強させてもらっています。

CAPD指導看護師が増えることが、PD看護の充実に繋がるのではないかと考え、今後ともより現場に即した研修ができるよう取り組んでいきたいと思えます。

CAPD指導看護師研修



泌尿器科医員／阿部 陽平

接することで成長を

2016年4月より川島病院で泌尿器科医として勤務しています。以前の勤務先では主に泌尿器科悪性腫瘍や排尿機能障害の診療に携わっていました。透析医療に関してある程度の知識はありましたが、実際に透析されている患者さんの診療に携わったことは一度もありませんでした。そんな私が勤務初日に担当させていただいた患者さんが腹膜透析の合併症の一つである腹膜炎の治療のために入院されていた方でした。ご自身が受けられてきた治療や現在の腹膜透析の状況などを細かく把握されており、大変驚かされました。また初めて腹膜透析に触れる機会となり今でも強く印象に残っています。

この1年半の間に川島病院で主に経験したものが腹膜透析の手術と合併症の治療です。腹膜透析はお腹の中(腹腔)にカテー

川島病院で腹膜透析の研修を行って

テルを挿入し透析液を出し入れして透析を行います。血液透析ではシャントの手術が必要であるように腹膜透析はカテーテルを腹腔内に挿入する手術が必要となります。カテーテルの先端は男性なら膀胱と直腸の間、女性なら子宮と直腸の間にある空間に位置するように挿入します。この部分は座っていても寝ていても最も低い場所になり、透析液が抜けやすくなるからです。手術ではカテーテルをその空間に挿入することが重要ですが、当初はなかなか上手く挿入することができませんでした。手術の際には水口院長のご指導の下に執刀させていただきました。少しずつ確実に経験を積ませていただいております。

腹膜透析の最も多い合併症が腹膜炎です。基本的に抗菌薬の点滴で治癒し2週間程度で退院される患者さんがほとんどですが、難治性となると治療期間が延長し、最終的にはカテーテルを抜去しなくてはならなくなる場合があります。患者さんには大変心苦しいのですが抜去の必要性をご説明し、今後の透析方法についてご相談させていただきます。その際に患者さんが腹膜透析を選択される理由となった現在のお仕事やご家族との関係、住まわれている地域などをお聞きすることがあり、透析が患者さんの生活と直結しているのだと強く感じさせられます。

今後も少しでも腹膜透析を選択された患者さんのお力になれるよう、サポートさせていただきますのでどうかよろしくお願ひいたします。



委員会の活動

当院には、医療の質やサービスの向上を目的として様々な委員会が設置されています。その一つとしてPD管理委員会があり、医師、看護師、栄養士をメンバーとしてPD患者さんのより良い管理を目指して月に1度活動を行っています。

CAPD指導看護師研修や患者者交流会の運営はもちろん、徳島PDネットワークへの参加、そして、日々の患者さんの治療や看護の在り方について話し合ったりしています。特にPDの継続を左右する腹膜炎については、毎回各症例から、治療や指導方法の問題点を振り返り今後に生かせるよう努めています。また、各メンバーが他のスタッフを牽引できるようなミニレクチャーや、抄読会をおこない知識の向上を図っています。

学術的な側面では、毎年いろいろな研究に取り組み、日本腹膜透析医学会 学術集会総会に発表し、患者さんにフィードバックできるように頑張っています。



患者インタビュー

PATIENT INTERVIEW



川島病院の透析室が開設されてから40年が過ぎました。まず患者会の活動について教えてください。

武市 現在の大きな活動としては、各透析施設ごとの活動となっており年1回の総会で集まったり、遠足や旅行に行ったりしながら患者同士の親睦を深めています。

岸田 私は今年入ったばかりですが、各病院・施設に患者会があって、その上に県の団体徳腎協（徳島県腎臓病協議会）、更にその上に全国組織の全腎協（全国腎臓病協議会）がありますね。

尾形 新しく透析を始められた方がい

言われましたよ。(笑)

尾形 長い間元気に過ごさせてもらって、本当に川島病院にお世話になって良かったなと思っています。

スタッフとの関係は？

尾形 本当に長い間お世話になりつばなしです。3年前に主人を亡くしたのですが、その時は看護師さん一人一人に声をかけてもらって本当に助けられました。

武市 私も中の良い透析仲間が亡くなった時は皆に声をかけられて嬉しかったですね。

尾形 患者がどんどん増えていく中でも肝心な時は声をかけてくれるし、普段でもたわいのない些細なことでも声をかけてくれる、ほんとにありがたいです。

岸田 私は、まだ血液透析に変更してから間がないので、治療の事や生活の事など分からない事を一方的に聞くばかりですが、それにちゃんと答えてくれますし助かっています。

透析のない日はどのように過ごされていますか？

尾形 畑や家の事など結構ゴソゴソ動いています。周りには透析しているのに元気だねと言われます。

武市 私は最近腰痛が少しひどくなっています。卓球を1時間くらいしています。卓球マシンの卓球で



血液透析
尾形 弘子さん
脇町川島クリニック

ればその施設の担当者が入会を案内しています。患者全員が入会している訳ではありません。

武市 最近は患者会に入会される方も減ってきています。

尾形 昔と違い導入される方の年齢も高くなっていて、入会しても活動に参加できないとの理由で入会されない方が多くなっていますね。

岸田 私は今は血液透析ですが、これまで7年半ほど腹膜透析をしていました。腹膜透析には患者会がありませんでした。その代わり年1回患者会との交流会がありました。是非腹膜透析にも患者会を設立して欲しいですね。

長年透析治療を受けられています。その間医療も進歩し、昔に比べると変化した部分がたくさんあったと思いますが、昔に比べて変化したところは？

尾形 30年近く透析を行っています。透析を開始した最初の2年位は体が透析についていってなかったのかしん

すけど、もともと卓球をしていたこともあって楽しいし、マシンなら腰を据えて出来るので案外腰にも良いかもしれせん。以前は透析の仲間と一緒にボーリングをしていて、毎年障害者スポーツ大会にも出場、その仲間と交代で優勝していたときもあり、今思い出してもあの頃はほんとに楽しかったですね。

岸田 私はみなさんほどの透析歴ではないですが、透析をしても元気がない人が多いですね。自分が透析しないといけないと言われた時はショックでもう人生終わったと思います。でも、それでも腹膜透析をしていてはよく旅行にも行きました。腹膜透析の機材を車に積んで車の中でバック交換をした事もあります。

武市 血液透析でも旅行は行けますよ。昔、東北岩手の方まで温泉入りに行きました。患者会でしたので知らぬ土地での透析もみんな受けければ、心強いと言いか安心というか、でしたね。またそんな風に行けたらと思います。

患者さん同士の付き合いも長くなりますが、横のつながりはどうですか？ また今後こうなって欲しいなど希望ありますか？

尾形 患者会に入っていることで助けられた部分は大きいですね。透析を始めた頃は、透析をしていること



血液透析
武市 光江さん
川島透析クリニック

だったですね。その後23年はとても元気です。25年を過ぎたあたりから体の疲れを感じるようになりました。長い間透析をされている人から25年過ぎるとだんだん色々症状が出てくると聞いていたからかも知れませんが、27年目で手根管症候群が出てきたり実際に合併症も出てきました。それでも長年比較的元気にいられることはありがたいですね。同じ透析の方で出産を経験された方もいらっしゃいます。

武市 私は食べることが好きで何でもよく食べますが、透析を長年していることもありやっぱり石灰化が進んでいます。治療はHDFをしてもらってそのおかげで痛みもなく助かっています。透析の針も昔は痛かったです。透析の針も昔は痛かったです。透析の針も昔は痛かったです。透析の針も昔は痛かったです。

に引け目を感じ、外に出ていくのが臆病になった時期がありました。そんな時に患者会の総会や遠足などを通じて親睦を深められ、お互い支え合っているのがありがたいし、嬉しいですね。

岸田 でも患者会への入会者数は年々減っていると聞いています。今はそれぞれの施設で活動していますが、今後とも患者会の結束を強くするためにもまとまっていくことも必要なのではないか。やはり数は力の部分があります。すよね。数があれば意見も言いやすいし活動もしやすいのではないかと。昔に比べると医療改正等で高齢者や障害者の医療費負担も増えている。透析患者の負担もいつ増えるか分からない。先人が築いてきた活動を引き継いで我々患者会が頑張っていかなければなりませんよ。まず、会員数を増やしていきたいですね。腹膜透析をし始めた頃は分からない事だらけでした。その都度看護師さんに聞いていきました。が、やっぱり実際に生活していくと細々気になる事もあり、インターネットなどで自分なりに調べたりして、直接患者会と話し、話さないで分らない事だらけでした。腹膜透析では患者会がなくて大変という

か他の患者さんの話を聞きたくてもありませんでした。血液透析は患者会があるわけだし患者会のメリットを、活動



腹膜透析経験
岸田 裕幸さん
川島透析クリニック

尾形 他の病院の方より、川島病院で透析を受けられている人は顔色がいい。透析患者は長年透析を行っているのと独特の顔色になるのに何が違うのかと聞かれたりします。そういう良い治療状況の中で透析治療を受けられているのはありがたいです。

岸田 私も去年からHDFに変更していますが、体調はいいですね。

尾形 (HDFについて)昔は限られた人しかできないという感じでしたが、今は早い時期から出来るようになっていきました。飲み薬も新しいものが出てきて、貧血も昔は輸血をしていました。私が導入して2年位経った頃にEPOが出来てそれから楽になりました。私が透析を始める以前から透析をされている方は余命10年、20年と言われていました。あの頃の方々は苦労が多かったと思います。

武市 今や透析40年を超える人もいますもんね。すごいですよね。

岸田 実は透析始めるときに先生に何年生きられるかって聞きました。そして死ねるまで生きられますって

を声に上げてやっていくしかないですね。

武市 そうですね。そうなるに引き付け、心強いですね。ただ現状では引張って行く人が段々と少なくなってきたり、いところもありますね。

尾形 医療費に関しては、大阪・兵庫あたりは負担が増えているとか、他のところでも署名活動をしているところもあるようです。もしかすれば徳島でも必要になるかもしれませんね。患者会の活動が全体的に下火になってきているようですが絶対必要だし、やっぱり入会者数を増やしていきたいですね。

武市 旅行に行ったりするのも多い方が楽しいですね。そんな楽しみも紹介して盛り上げていきましょう。

岸田 今日みなさんにお会いして初めて聞いた話もあって、やっぱり話してみないと分からないことが沢山ですね。自分がこの先透析を続けてどうなるんだろうとか、きつとみなそれぞれそんな気持ちがあると思います。ぜひとも気軽に話せるような場を広げていって欲しいですね。



広報委員/川島 友一郎



広報委員/藤田 都慕

撮影
広報委員/榎本 勉

当院は非常に変化の多い医療機関だと思っています。私がお世話になって20年になります。ほとんど常にどこかで工事をしていますし、組織の見直しもよく行っています。

そのなかでこの10年間は、病院本体に関しては増改築が一段落し、運用面での変化が大きかったように思います。

川島循環器クリニックと川島病院の統合、川島病院の許可病床数が123床へ増加、DPC対象病院化、社会医療法人化など病院運営システムの更新。また、256列の超多列CTや



MRIの導入など画像診断の進歩により、診断能力が格段に向上したこと。PVP（前立腺レーザー蒸散術）やカテーテルアブレーションの開始などの診療内容の充実。生化学検査検査の院内化など、診療面でも大きな変化がありました。

免震構造の透析クリニックを開設し、通院透析を透析クリニックに移動したことで、病院のスペースが広がり、検査室や外来診察室を拡充させることができました。

透析患者数や外来・入院患者や各種検査・手術件数の増加を支える職員の増加に伴い、研修、教育システムが充実した。市民公開講座や阿波踊りの開始など多くの変化がありました。

組織の発展には、変化するということは重要なことだと思っています。今後も、より良い医療を目指して改善の努力をし、変化して行きたいと思っていますので、よろしくお願いいたします。



副院長／西内 健

診療部長／木村 建彦



循環器内科

診療部長／木村 建彦

循環器科は川島病院に隣接するクリニックとして1998年6月西内健院長のもと開院しました。CCU（心臓治療専用の集中治療室）をもち、心臓カテーテル治療ができる有床診療所としてはじまりました。もちろん透析治療も同時にできるため、透析患者さんに多い虚血性心疾患（急性心筋梗塞や狭心症）、心不全、弁膜症の急性期に

も対応が可能となりました。のちに院内においても38床の透析室ができ、川島病院に統合されたのちは、入院患者さんを対象に維持透析をおこなっています。腎臓病や透析と心臓病を同時に診療することで、多くの病気の理解が拡がりました。

透析の方は全身の血管に石灰化が沈着し、硬い血管になって（動脈硬化）、細くなったり、詰まったりしまっていることがよくあります。脳の血管や心臓の血管がそうなる命にかかわります。透析治療が石灰化をすすめると考えられていましたが、実は透析をはじめ以前よりこのような動脈硬化がすでに進行していることがわかってきました。透析治療がわるいのではなく、腎臓の働きがわるいことが糖尿病や高血圧、喫煙などと同様に動脈硬化のリスクとなるのです。そのひとつには血圧のコントロール不良があります。腎臓の働きがわるい方は、余分な水分が尿として排泄できず、血管がパンパンになり血圧が上昇します。現在の血圧の薬のおおくは血管を拡張して血圧を下げるのですから、もはや効果は期

待できません。高い血圧に対応するために血管はしなやかさを失い硬くなり石灰が沈着してゆくの。透析をはじめると水分管理は機械的にできるようになります。しっかりと血圧をコントロールしてしなやかな血管を維持しませんか。



平成27年

- 2月 カテーテルアブレーション治療開始
CARTO3システム(3Dマッピングシステム)、WorkMate Claris(心臓電気生理学的検査などの装置) Shock AT 心腔内除細動システム導入
- 3月 川島透析クリニック開院
透析ベッド数160床 JMS清浄化システム(PF-806F・BC・ピュアラ-03・AHI/BHI-502)と最新の全自動透析装置各40台(TORAI TR-3300M・NIKKISO DCS-100NX・NIPPO NCV-3・JMS GC-110N)



川島透析クリニック

- 5月 脇町川島クリニック院外処方開始
- 5月 検体検査室 FMS(Facility Management System)導入(生化学分析装置、血球分析装置、尿定性検査装置、顕微鏡、冷蔵庫、遠心機などの更新)
- 7月 大動脈内バルーンポンプ CARDIOSAVE(IABP)装置3台目導入
- 9月 鴨島川島クリニック院外処方開始
- 10月 鳴門川島クリニック院外処方開始

平成29年

- 2月 1号館外来新設 診療開始
- 2月 採血室 開設
(自動採血・採尿受付機、採血台、自動採血管準備装置、採血業務アシストシステムなどの導入)
- 3月 歯科診療室増築、診療台新設
- 4月 西祖谷山村診療所での栄養指導開始
- 4月 シャント手術室新設 手術開始
- 6月 稼働病床103床に
- 7月 稼働病床107床に

2014

平成26年

- 6月 訪問診療開始(~2017年4月まで)
- 6月 個人用透析監視装置(TR-3000S)導入
- 11月 下肢動脈狭窄部貫通用カテーテルシステム(CROSSERシステム)導入
- 11月 診察室高精細モニターへ更新
全施設フィルムレス化

2015

2016

平成28年

- 2月 阿南川島クリニック開院
(NIKKISO Total System NX導入: JWS・DAB-40NX・DRY-01・DRY-11A・DCS-100NX)



阿南川島クリニック

- 3月 鳴門川島クリニック透析システム変更
(東レ 透析用水・透析液トータルクリーン化システム: TW-RDH・TP-AHI/BHI-R・TC-HI・TR-3300M)
- 3月 陰圧創傷治療(VAC療法)開始
- 3月 OP室透視装置(島津製OPESCOPE)の更新デジタル画像保存が可能
- 4月 血管外科、皮膚科標榜
- 4月 脳神経外科外来スタート
- 6月 形成外科外来スタート
- 11月 2階CT装置をシーメンス社 Edge 64列に更新
- 11月 放射線室と生理検査室の2階移設完了
これより業務開始
- 11月 一般撮影装置がFCRからDRシステムに更新
病室撮影の業務も刷新
- 11月 生理検査室 1号館2階に改装
(PHILIPS社 EPIQ 7G 導入)

2017

2008 »» 2017

平成20年から29年までの10年間



平成21年

- 3月 循環器CT(フィリップス社256列)導入
冠動脈CTA開始
- 3月 日本光電社製 診断情報システム PrimeVita導入
- 7月 DPC対象病院に
- 10月 ベンチレータ760・840 導入
- 10月 MRI装置(東芝製EXCELART 1.5T)導入

平成23年

- 5月 脇町川島クリニック開院(JMS清浄化システム GC-100N全自動コンソール導入)



脇町川島クリニック

平成24年

- 3月 心臓リハビリテーションの運用を開始
- 4月 診療報酬改定にて、オンラインHDF療法(「慢性維持透析濾過(複雑なもの)」)が認定
- 6月 HHD(在宅血液透析)開始
透析用監視装置 NCV-2i (Type G)
- 8月 PVP(前立腺レーザー蒸散術)手術開始
- 11月 各クリニックと川島病院とのSYNAPSE画像ネットワーク 接続開始
- 12月 周術期口腔機能管理開始

2008

平成20年

- 2月 大動脈内バルーンポンプCS-100(IABP)装置2台目導入
- 4月 歯科・歯科口腔外科開設
- 11月 特定健診・特定保健指導開始
- 12月 核医学診断装置(シーメンス社ECAM)最新型に更新

2009

2010

平成22年

- 3月 X線TV装置(東芝製フラットパネル型)導入
- 6月 医療法人川島クリニックと医療法人川島会合併し医療法人川島会へ
- 9月 医療法人川島会川島病院と医療法人川島会川島循環器クリニックを統合
川島病院許可病床 123床 稼働病床96床
- 9月 CCU個人用透析用水作成装置(MRC-DC nano)導入
- 9月 心臓カテーテル室リニューアル
- 9月 心臓血管カテ装置(フィリップス社 バイプレーン型)導入

2011

2012

2013

平成25年

- 1月 医療法人川島会から社会医療法人川島会へ
- 4月 アフェレーシス認定病院 LDLアフェレーシスや血球成分除去療法、腹水濾過濃縮静注法(血漿浄化装置: MA-03・多用途血液処理用装置: KM-9000)
- 7月 電子カルテ変更 Medical Station Hospital → Mirais

糖尿病内科

糖尿病内科 医師／小松 まち子
糖尿病内科 医師／野間 喜彦



糖尿病内科 医師
野間 喜彦

1995年、週1回の糖尿病専門外来が開設されたのが糖尿病内科の始まりです。現在は糖尿病専門医6名(島、長瀬、小松、宮、野間、明比)が医師以外の看護師、管理栄養士、薬剤師、理学療法士、臨床検査技師、歯科衛生士などのメディカルスタッフ(日本糖尿病療養指導士14名、徳島県糖尿病療養指導士10名)とともに糖尿病診療チームとして、外来および入院診療、透析患者の糖尿病管理を行っています。

糖尿病は自覚症状がほとんど出ない病気ですが、治療を怠ると全身に合併症が出てきます。合併症が進行すると失明したり、腎不全から透析が必要となったり、動脈硬化が進んで狭心症や心筋梗塞、脳卒中、下肢の切断などがおこります。また、最近では歯周病や認知症も糖尿病と関連があると言われていいます。一方、糖尿病をしっかりとコントロールしておくことで合併症を防ぐことができ、健康な人と変わらない日常生活を送り、健康な人と変わらない寿命を全うすることが出来ます。

合併症が起らないように、あるいは進行しないように糖尿病と上手に付き合うためには、糖尿病について十分理解することがその第一歩です。このため、糖尿病内科では、いろいろな糖尿病についての学習コースを用意して、個々の患者さまの状態や生活スタイルに合わせた個別指導をしています。例えば、外来学習コースでは、外来通院時に糖尿病の治療をしながら入院とほぼ同等の糖尿病についての学習をし、合併症のチェックをします。外来学習コースを終了された患者さまは、入院コースよりも長期にわたって良好な糖尿病コントロールを維持できるという結果も出ています。その他、当院の糖尿病患者さまとご家族を対象にした年2回の糖尿病教室と月1回の糖尿病ミニレクチャー、春と秋の親睦会(春は徳島城公園までのウォーキング、秋は院内での食事会とゲーム)も行っています。是非ご参加下さい。



糖尿病内科 医師
小松 まち子



平成29年度 川島ホスピタルグループ 事業計画



1へき地医療の支援

引き続きへき地診療所に医師派遣を行い、へき地における医師確保に貢献する。

2診療内容の充実

- 開設2年目となる阿南川島クリニックの透析患者の受け入れを推進し、県南部の透析治療の拠点とする。
- 対外関係の強化、市民公開講座をはじめとする広報活動、各クリニックでの外来診療強化による診療圏の拡大などにより外来診療を強化する。
- 透析患者数の停滞が予想される中で、診療科目の拡大に努める。
- 各分野で、より専門性の高い診療を提供する。

3透析患者の確保

- 通院支援を強化し、外来透析患者の利便性の向上に努める。
- 徳島県の腎疾患対策事業に協力することにより、腎臓病外来の充実に努める。

4川島病院の構造設備の改装

- 保有病床(123床)の有効利用と今後10年間の診療の質・量の変化に対応できる構造設備を検討し、引き続き病院の改装を行う。
- 建築後32年から25年が経過する病院の安全性や効率性を確保するため、新病院建築に向け検討を行う。

5クリニックにおける透析用水の確保

- 脇町川島クリニックにおいて災害時ににおける透析用水確保のため、上水貯水槽の増設を行う。

6迷惑行為対策の推進

- KHG迷惑行為対策マニュアルを周知徹底する。
- 迷惑行為の防止に関する研修会を実施する。

7歯科診療による患者ケアの充実化

- 全身疾患を有する患者の歯科治療を実施する。
- 入院患者の口腔ケアと摂食嚥下障害への対応を行う。

8災害対策活動、医療事故防止活動の積極的推進

- 透析患者の高齢化に伴い、増加が想定される透析中の抜針事故防止対策の強化を図る。
- 医療事故防止のため、勉強会の開催等を通じ職員の技術能力の向上を図る。
- 大規模震災を想定しての定期的対応訓練及び災害に備えての準備を実施する。
- 各種手順やマニュアルの周知徹底及び実行を促進する。
- 対策月間設定等による全職員に対する啓発、教育を強化し充実させる。
- 震災対策会議を開催し内容を二層充実させる。

9教育・研究活動の強化と支援

- 新入職員、中堅職員、途中入職職員への教育内容を充実させる。
- KHGと関連のある分野の全国規模の学会、研究会への積極的参加を奨励し支援する。

10地域社会との交流や関連施設との連携の強化

- 健康・福祉フェスタを実施し内容を二層充実させる。
- 震災対策会議を開催し内容を二層充実させる。(再掲)
- 広報誌を継続発行し内容を二層充実させる。
- ホームページの内容を充実させタイムリーに更新する。
- 関連病院間や病診連携会議へ積極的に参加する。

11働き甲斐のある職場環境の確保

- チーム医療を推進する。
- 円滑な業務執行のため、適切な職員数の確保に努める。
- 業務上の成果、努力を人事考課へ正當に反映させる。
- 職員の職場労働安全衛生対策を推進する。
- 職員に対する福利厚生を充実させる。



祝！理事長
旭日小綬章叙勲



私はこのたび
旭日小綬章を
いただきました。

5月11日午前に厚生労働省にて二
川事務次官より勲章と勲記を授与
され、その後家内ともども皇居に参
内し、天皇陛下に拝謁いたしました。
大変長い1日でありましたが、各
方面からお祝いの品々や、祝電を頂
戴し、改めて叙勲の栄に浴することの
重大さを認識しました。
私の叙勲の理由は徳島県医師会会
長を約10年務めたことに対する褒美
だと思います。私としましては勲章をい
ただいたことも感激いたしました。たが、
さる7月9日に横倉日本医師会長・
徳島県知事をはじめ、大勢の方にご
出席いただき、祝賀会を開催してい
ただいたことも大変な喜びでござい
ました。県内外から懐かしい方々に
も大勢お越しいただき、過分なお祝
いの言葉もたくさん頂戴しました。
本当に人生の最高の日であったと
思っております。
今後は余暇を楽しみながら、後進
の指導に当たりたいと考えています。

川島 周



藍住川島クリニック起工式



藍住川島クリニック(予定)

- 開院予定:2018年7月
- 所在地:藍住町徳命字前須西98
- 診療科:内科、人工透析内科
- 院長:長瀬 教夫
- 診療設備:
 - 診察室 2室
 - 処置室 1室
 - 透析室 1室 (透析ベッド53床)
 - CT
 - レントゲン
 - 内視鏡
 - 膀胱鏡
 - 心電図
 - エコー



完成予想図

あすか保育園 2017年11月リニューアル予定!

小さな子供を持つ職員も増え、より多くのお子様を預かれるように院内保育所をリニューアルします!
 これまで、1室だった保育室も増え、お子様の年齢に合わせた保育ができるようになります!
 また、砂場や中庭も建設され、遊びの幅も広がります!



イラスト 歯科衛生士/山崎 明香

BEST SHOT

今年の1枚

川島周

「川島周」の撮影は、呼ばれた場所での撮影でした。みなさんが、この風景を、何とでも心掛と捉えて撮影しました。



市民公開講座 プログラム

- ◆開会あいさつ
川島 周
(社会医療法人川島会理事長)
- ◆座長あいさつ
水口 潤
(川島病院院長)
- ◆特別講演
浦上 克哉氏
(鳥取大医学部保健学科教授)
- ◆講演
鶯 春夫氏
(徳島文理大保健福祉学部
理学療法学科教授)
- ◆質疑応答
- ◆閉会



第7回

社会医療法人 川島会 川島病院 市民公開講座

知ろう防ごう認知症

第7回社会医療法人川島会川島病院市民公開講座「知ろう防ごう認知症」(同病院、徳島新聞社主催)が7月16日、徳島市のJRホテルクレメント徳島で開かれた。鳥取大医学部の浦上克哉教授が「認知症への正しい理解と効果的な予防」をテーマに特別講演。認知症の代表疾患であるアルツハイマー型認知症での服薬やケアによる進行抑止法をはじめ、自ら携わった予防事例を紹介しながら、早期診断・早期治療を呼び掛けた。徳島文理大保健福祉学部の鶯春夫教授は、有酸素運動と認知トレーニングを組み合わせることで、軽度認知障害において記憶力が向上したという新しい知見を基に、簡単にできる効果的な運動法を披露した。

開会のあいさつ 診療科目外をテーマに



川島 周
(社会医療法人川島会理事長)

市民講座も今年で7回目となった。皆さんのお役に立ちたいという思いから、我々の診療科目ではないが今回は「認知症」をテーマに取り上げることになった。聴講には千人以上の応募をいただき、本当にありがたう思っている。講師の浦上先生は日本の認知症研究の第一人者であり、以前講演をお聴きし、非常に良かったので今回お願いした。一方、鶯先生は昨年の講演でも効果的な体操をたくさん教えていただき、好評であった。今回は、先生方のお話をじっくりと聴く構成にした。楽しく学んでいただければ幸いである。

座長のあいさつ 健康の維持に役立てて



水口 潤
(川島病院院長)

認知症といえば、映画「恍惚(こうこつ)の人」を思い出す。森繁久彌さん演じる認知症の姑(しゅうと)をお嫁さんが介護するストーリーだ。公開時の1970年代前半は老人福祉法の制定後、特別養護老人ホームが作られ始めた頃である。劇中でお嫁さん以外にも姑の世話をする若いカップルが登場するが、彼らは団塊の世代で、今は介護される当事者になるうかという年代だ。その上、姑の家族は息子夫婦に孫1人と、現代の課題を予見していたかのように感慨深い。本日の認知症の予防と対策についての講演が、皆様の健康維持に役立つことを願う。

認知症への正しい理解と効果的な予防



浦上 克哉氏
鳥取大医学部保健学科学教授

初期症状はもの忘れ

厚生労働省の最新データによると、2012年時点で日本の認知症患者は462万人に上る。65歳以上の7人に1人が認知症であるという。

認知症は20〜30年かけてゆっくり進行する穏やかな病気であり、そんなに怖い病気ではない。暴力行為や徘徊（はいかい）をするのは病気の末期状態で、そうなる前に的確な治療するのが重要である。認知症は単なる老化現象ではなく、脳の病気であり、早く見つけ予防してほしい。

そもそも病気の「予防」には、第1次予防：発症予防、第2次予防：早期発見・早期治療、第3次予防：進行防止の三つの概念がある。病気の発症を予防
まう。しかし、MCIの段階で適切に予防すれば、約1割が正常に復帰し、約4割がMCIにとどまることができるといデータもある。

鳥取県琴浦町では、2004年から認知症予防活動に取り組んでいる。65歳以上の介護保険を受給していない方を対象に、私たちが開発した「もの忘れ相談プログラム」を使って認知症検診を始めた。タッチパネルで簡単な質問に答えてもらうことで、認知症の早期発見に努めている。認知症の疑いがある方は専門医療機関に、MCIの方なら認知症予防教室を紹介する。

認知症予防教室では、①運動②知的活動（頭を使って指先を動かす）③コミュニケーションを取ることを指導する。その結果、認知機能評価において3ヵ月後に認知機能の改善がみられ、3年後も良好な状態が維持できていた。このため、琴浦町では初年度で2360万円の介護保険費用削減に成功、08年度には7800万円の削減を達成した。現在、活動は全国に広がっている。

現在、国は認知症対策に「認知症になっても安心して暮らせる町づくり」を掲げているが、私は「認知症予防ができる町づくり」を目指している。10年に立ち上げた日本認知症予防学会の活動を通じ、健常な方の第1次予防はもちろん、病気になる方の第2次、第3次予防にも取り組んでいきたい。

するだけでなく、病気を進行させないようにするのも予防である。

認知症は、初期症状であるもの忘れには、「単なるもの忘れ」と「認知症によるもの忘れ」がある。食事はしたけど何を食べたか忘れた、人の名前が出てこない、でもヒントがあれば分かるというなら単なるもの忘れだ。ところがヒントがあつても出てこない、メモはするがメモを忘れる、使っていた道具の使い方を忘れる



講演

運動による認知症の予防



驚 春夫氏
徳島文理大
保健福祉学部理学療法学科教授

ウォーキング効果的

認知症の方々は年々増加しており、65歳以上では認知症とその予備群は2012年時点で4人に1人、25年には3人に1人になるといわれている（厚生労働省15年報告）。このため、認知症予防の検討は今後の重要なテーマである。我々が注目しているのは前頭前野であり、ここをいかに鍛えていくかが予防のカギと考える。

従来までの研究において、前頭前野の活性化法として推奨されているのが、読み・書き・計算である。小学校低学年レベルの足し算や引き算をできるだけ早く解く。音読も効果的で、読み間違えて詰まったりして脳に失敗を与えることが活性化になる。毎日5分、新聞や本

るようなら病気によるもの忘れである。認知症を来す疾患として最も多いのは、神経変性疾患に分類されるアルツハイマー型認知症、レビー小体型認知症、前頭側頭型認知症のほか、脳血管障害が原因で起こる血管性認知症である。なかでもアルツハイマー型認知症は認知症の約7割を占める代表疾患である。家族がおかしいなと思ったら早めに医師に相談してほしい。

アルツハイマー型認知症の特徴は、①最近のことを忘れる②発症時期が不明確③ゆっくり悪くなる④運動障害がないなどで、糖尿病の方も発症しやすいことが最近分かってきた。

アルツハイマー型認知症の治療薬には、記憶障害等の中核症状に効果があるものとして、コリンエステラーゼ阻害薬（ドネペジル、ガランタミン、リバスチグミンパッチ）、NMDA受容体拮抗（きっこう）薬（メマンチン）の2系統がある。早期診断をされた方は、コリンエステラーゼ阻害薬が効果的だ。病状が進行していれば、コリンエステラーゼ阻害薬とNMDA受容体拮抗薬の併用が最善である。

同時に大事なのが家族の接し方である。「忘れないように覚えておいてね」と言うのはNG。忘れてもいんだよ、覚えておいてあげるから」と、苦手なことは家族がカバーしますよという声掛けが望ましい。ただ、家族も気持ちに余裕

を音読してもらいたい。また、頭を使う指の運動もよい。例えば、右手は親指から、左手は小指から数を同時に数える。できないことが脳の刺激になる。これができるなら、数を数えながら右手で三角を、左手で四角を同時に描くなど、課題を難しくする。頭を使う手作業としては料理もお勧め。週に1、2回新しいおかずをチャレンジするとよい。

そして、できるだけ毎日出かけていく場所をつくり、誰かと話をするのも有効だ。一方、運動による予防効果の研究も進み、認知症の発症リスクが軽減できるという検証結果も報告されている。ウォーキングなどの有酸素運動を楽にできるレベルからややきついレベルで週3回以上、1回30分以上することで認知症の発症率が3割程度減るといデータがある。さらに最近で



がないと優しくはできないので、リフレッシュする時間をつくることも重要だ。

自分でできる認知症予防対策としては、短歌、俳句、日記を書くなど創造的な活動が有効。利き手でない手を使うなど、日頃使わない神経を使うのもいい。6〜8時間の質の良い睡眠をとることも大事だ。また、認知症予防が期待できる食べ物としては、野菜・果物に含まれるビタミンCやβカロチン、青魚に含まれるDHA、コーヒー、緑茶などがある。

一方、認知症予備軍と呼ばれる軽度認知障害[Mild Cognitive Impairment: MCI]を持つ人もいる。厚生労働省のデータでは日本に400万人いるとされる。MCIは正常と認知症の移行過程であり、3〜5年で認知症になってし

は、認知症予防としてウォーキングをしている方は次の二つの工夫をすればもっと効果が高くなるという知見も出てきた。一つは「速歩」である。軽度認知障害や認知症が進行すると歩行速度が遅く



2016-2017 Photo Report

写真で見る川島ホスピタルグループ行事

■健康・福祉フェスタ

■慰安旅行

・パリ・台湾・北海道

■全日本マラソンランキング、島先生が82歳の部で第1位

■とくしまマラソン

■阿波踊り

■バーベキュー大会

■部活・サークル紹介



市民公開講座



なるという報告がある。横断歩道を青信号点灯中に渡り切れなくなったときは要注意だ。

腸腰筋を鍛え、10メートルを12.5秒以下の速度で歩けるようにしてほしい。腸腰筋は、立った姿勢か、椅子に座った姿勢で大腿(だいたい)を交互に高く上げる足踏み運動を「少しきつい」程度まで行うことで鍛えられる。ウォーキングをしている方は、腸腰筋を鍛え、途中で何分間か早歩きを入れる「インターバル速歩」をしてほしい。速歩を1日トータルで約15分間するだけで認知症の発症率をさらに下げられる可能性がある。速歩はかかとから着地するように少し大股で歩く。腕は肘を曲げて後ろに引くように振るのがポイントである。

もう一つは「ながら運動」である。最近の研究で軽度認知障害であれば運動しながら頭を使う「二重課題運動で認知機能の維持向上ができる」ことが示されている。野菜や魚の名前を挙げ、計算やしりとりをしながらウォーキングすると効果的だ。

椅子に座ってできるながら運動を紹介する。足踏みしながら1から20まで声を出して数え、3の倍数で拍手する。慣れると効果がないので、両足を交互に外に出しては戻すステップに変える。できたなら、足踏みしながら数を数え3の倍数で右手を、5の倍数で左手を上げる運動に変える。それもできたなら左手を4の倍数で前に出すなどに変え、課題を難しくしていく。

また、1は肩、2はへそ、3は膝と設定し、足踏みしながら「1、2、3、ハイ」というようにリズムに乗って指示する番号の場所を順番に触る運動もお勧め。これらの運動は歩行が不自由な方でも集団で楽しく行えるので、ぜひ実践してほしい。

脳に一番良くないのは、ハンコで押したような変化のない生活を送ることである。スポーツやレクリエーション、友達との食事会、旅行など楽しみや生きがいをつくってもらいたい。毎日出かける場所や友達をつくって笑ってほしい。それ自身が人生に楽しみを与え、認知症予防につながる。

質疑応答

Q&A

聴講者からあらかじめ募っていた質問に対し、浦上、鷺岡教授が回答した。

Q: 生活の中で防止できるか
A: 楽しみや生きがいを持つ。

Q: 高齢の家族が入院する場合、環境の変化に伴う認知機能の低下を防ぐ効果的な接し方は。(67歳男性)

A: 浦上: 家では普通に生活できていても入院で環境が変わると生活ができないことがある。特にアルツハイマー型認知症では最近の記憶がなくなるため、慣れていない病院でトイレに行くとき自分の部屋に帰れなかつたりする。主治医と相談し、入院を可能な範囲で短くすることを勧めます。

Q: 認知症と、入院の時によく起こるせん妄との違いは。対応法は。(49歳女性)

A: 浦上: 認知症とせん妄は全く違う。意識がもうろうとするのがせん妄で、意識はしっかりあるが物事が分からなくなるのが認知症。ただ、入院したときや環境が大きく変わったときなど、認知症の人がせん妄になることはある。夜になると暴れたり、幻覚が見えたりする。入院が原因のせ

ん妄であれば入院を短期間にするのが望ましい。

Q: がん認知症に関連はあるか。(43歳女性)

A: 浦上: 直接的には関係ない。ただ、近年は高齢者ががんになり、長期に治療していると認知症を発症することもある。あるいは認知症の方ががんを発症し、並行して治療することが増えている。

Q: 膝や肩が痛くて運動ができないが、認知症にならない方法は。(83歳女性)

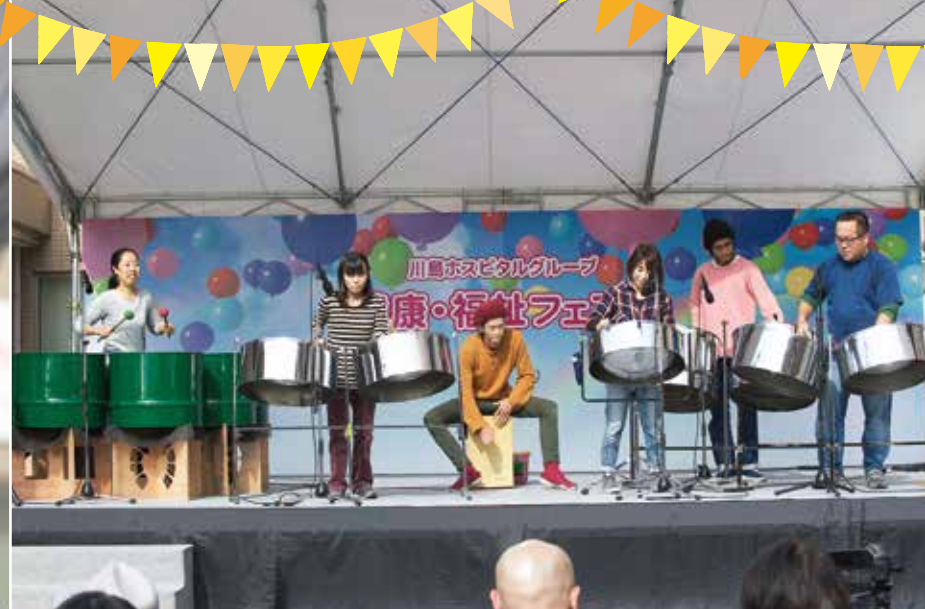
A: 鷺: 本日紹介した運動なら座っていてもできる。椅子に座って足踏みしながら計算やしりとりをするのもいい。痛みを起さないように、できる範囲でよいので頭を使いながら運動をしてほしい。

Q: 認知症の進行を遅らせるために普段できることは。(53歳女性)

A: 鷺: 健康な方や軽度認知障害の方に限っては運動が効果的なので、紹介した「早歩き」や「ながら運動」を実践してほしい。

Q: 認知症は生活の中で防止できるか。(79歳男性)

A: 鷺: 人生を楽しむこと自体が認知症予防になる。親しい友人や出掛ける場所をつくるなど、生活の中に楽しみや生きがいを持つてほしい。体が元気だと心も元気になる。普段は紹介した腸腰筋を鍛える足踏み運動を実践し、どんどん出かけていけるような体づくりをしてもらいたい。



2016.11.20 第19回 健康・福祉フェスタ



2016年11月20日(日)第19回川島病院健康福祉フェスタが開催されました。今回は天候にも恵まれ、川島病院前の駐車場は大勢の参加者で賑わっていました。理事長の挨拶により幕を開けた後、NPO法人太鼓の楽校による和太鼓演奏やコーラス、徳島で活動するステイールバンド「バンドル」の生演奏が行われました。ジュニアダンス、鼓笛隊、渦戦士エディによるヒーローショーやカラオケ大会があり、幅広い年齢層の参加者に楽しんでいただくことができました。また、徳島ヴォル

テイスや徳島インディゴソックスの選手の登場で、ステージ会場は大盛況でした。まんぷくコーナーでは、おでんやフランクフルト、ポップコーン、チョコロス、フライドポテト、たこ焼き、餅つき、ぜんざい、お抹茶などを販売しました。飲食コーナーにはステージを見ながら楽しそうに食事をしてる参加者の笑顔であふれていました。

午後からは、徳島市民病院のDMATによるAED講習が行われ、今後の災害や病院以外の身近に起こることもおかしくない緊急事態に備えて、みなさん熱心に講習を受けていました。その他にも、室内では健康コーナーが設けられており、参加者の健康チェックや身長・体重・血圧、血管年齢測定、医師による健康診断、希望に応じた運動療法・栄養相談が実施されました。この機会に少しでも自分の体

に興味をもち、健康への意識を高めてくれれば幸いです。

今年も、記念すべき20回目の開催となります。会場全員が笑顔で過ごせるような内容を企画していきますので、ぜひご参加ください。



広報委員／吉川由佳里
(臨床検査技師)





BALI

慰安旅行



我的最愛！台湾旅行記

『我的最愛』とは、中国語で、『お気に入り』という意味で、今回は私のそんな台湾旅行の『我的最愛』をご紹介します。

ひとつは今回の旅の一番の目的地、『九份』ですが、ここは日本で人気のあの『千と千尋の神隠し』に出てくる風景のモデルとなったとも言われています。山間部だけあって天気の変化は激しいですが、赤提灯で彩られた景色はまるでタイムスリップしたかのような、スタルジックな雰囲気を感じさせてくれます。また、そんな趣のある景色を眺めながら、ゆったりと流れる時間を感ぜながらのティータイムを堪能しました。

もうひとつは台湾南部に位置する都市『高雄』にあった美しい建築物の数々。ここ高雄には『パースポット』として有名な『龍虎塔』があり、龍の口から入り、虎の口から出る」とする自分のこれまでの悪戯が清められ、さらには災いも消えて無くなっているのだそう。その開運効果を願って、また高雄には「世界で最も美しい駅」の上位に選ばれたことがある『美麗島駅』があります。ステンドグラスアートの向こう側から差し込む光の透過の美しさには思わず足を止めて見惚れてしまいました。

旅情溢れる旅でしたが、また是非ともプライベートで行きたいと思えます。台湾、再見!!

臨床工学部 / 岡田大佑(臨床工学技士)

常夏の島バリへ

川島病院の魅力の一つに、2年に1回国内か海外へ慰安旅行に行くことができます。今回はバリへ3泊5日行かして頂いたので少し紹介したいと思います。

初日は終始移動(汗)。関空から約7時間のフライトでデンパサール空港に到着。ホテルで同行の皆さんとバリの伝統舞踊ケチャダンスを見ながらのディナーでした。メニューは何がなんだかわからないまま食べていましたが、スパイシーな味付けが多く私的には好みの味付けでした。

2日目はマリンスポーツを楽しむに離島のレンボンガン島へ。バナボートではカーブで勢い余ってロシア人の観光客を巻き添いに海に投げ出されてしまいました(笑)。帰ってきてからはみんなでバリ料理が美味しいというブンバリへ。もちろんホテルの料理も美味しかったですがそれ以上に美味しかったです。

3日目、私たちはトラガワジャ川のラフティングへ。休憩所でビールを飲んだり、激流の中泳いでみたり、大自然の中で気分爽快でした。ラフティングの最後には4m落下する箇所があり、迫力満点でした(一緒に行った方は腰を痛めたみたいです)。

名残惜しい最終日、ホテル発が21時半でほぼ1日遊びました。車をチャーターしウブドへ。道中で昼食に『BARONG BRIDGE CAFE』へ寄りました。『うまい。ナシゴレン、ミーゴレンどれをとっても今回の旅の中で一番美味しかったように思います。ウブドは芸術の街らしく工芸品や絵画など露店にたくさん並び、高いものは何十万も。帰りの飛行機は気候のせいかわいロットの飛行技術のせいかわいものすごく揺れてこの旅1番のアトラクションでした。

職員の皆さんと親睦を深めることができ、かつリフレッシュもさせていただきました。いい旅になりました。

広報委員 / 佐木山薫
(診療放射線技師)

全日本マラソンランキング、島先生が82歳の部で第1位



2015年、81歳での“とくしまマラソン”では、所要時間もさることながら、最後の2kmのしんどかったこと、これまで経験したことがないほどであった。これは、やはり加齢による機能劣化によるものと思う気持ちをはっきりと自覚したが、それはそうなのであろうが、トレーニング次第で、この劣化は僅かでも食い止められるのではないかという気持ちも、心の片隅に僅かにあった。数日後、マラソン仲間との打ち上げの会で、一杯飲んだ勢いもあって、ちゃんとトレーニングをして、来年はあのしんどさを若干でも軽減し、もう少し余裕をもってサブ5をクリアしてみたいと、大見得を切ってしまった。

そのようなこともあって、計画的に練習量を増やす新たなプランに従ってトレーニングをした。それでも、“とくしまマラソン2016”コース最後の田宮街道に出て、運動公園まで、沿道の声援に応え、格好良く、颯爽と走ってゴールインするという望みはかなえられなかったが、ゴールインしてみれば、前回より30分も記録は短縮していた。

この試みのおまけが、全日本マラソンランキング男子82歳の部第一位という、立派な賞状で表彰していただいたことである。日本国中の色々なコースで、82歳老人が23人も走っているのを知って、大いに鼓舞された次第である。

医師 島 健二



北海道

慰安旅行



広報委員/武市麻希(看護師)

二泊三日の北の大地!!
 初日はあいにくの雨でしたが、タワーから見下ろす五稜郭、二合目から見た函館の夜景、赤レンガ倉庫で食べた海鮮、函館ラーメン、そして夜は新鮮なウニ!!
 二日目は有珠山や洞爺湖、大沼公園といった大自然を散策。昼頃からは天気も良く、有珠山山頂から見る景色、洞爺湖は最高にきれいでした。そんな数々の大自然を後にし、北上し、大都会札幌へ。昼までとは全く違って賑やかな街で過ごした夜。この日は夜も天気が良く、新日本夜景三景のひとつ、札幌の夜景を見る事ができました。藻岩山から眺める広大な地平線に果てなく広がる札幌の夜景には本当に感動し、言葉を失いしばらく眺めていたのを覚えています。
 三日目、小樽のワイン工場でワインを試飲し、ものすごく美味しかったです。寒い北海道でブドウを栽培する厳しき、苦労も知り、買わずにはいられなくなりました。ブドウだけでなく、北海道では作れなかったお米も、たくさんの年月と人々の努力の結果、今ではユメヒリカというブランド米が出荷されるほどになったそうです。
 新鮮な海の幸からスイーツ、そして広大な大自然から大都会、いろんな顔を持つ北海道。二泊三日、本当に感動的な旅でした。またいつか行きたい、そう思える素敵な旅でした。

とくしまマラソン

2017

川島会 遊走会

【参加者による一言コメント】

サブ5を何とかクリア
出来、喜んでいます。
医師 島健二

初参加で、走りきれぬか不安でしたが、色々な方の応援で力が湧き完走することができました。
看護師 小谷 明子

多くの方の応援のおかげで、自己ベストで走りきることができました。来年も頑張りたいと思います。
臨床検査技師 酒井 誠人

歩こうかなと思っていた所で、遊走会メンバーの方と会うことができ、励みになり歩くことなく走りきることができました。辛かったけど、42.195km走りきることは自信になりました。
看護師 香川 高之

多くの声援を頂き完走出来ました。ありがとうございました。今後も無理せず走り続けたいです。
医師 岩瀬 俊

故障明けで2年ぶりの参戦！
初着ぐるみで子供たちのハイタッチを受けながら、たのし〜く15kmクリア、あとは定番のお接待。「ようこそ徳島へ！あと5km頑張れる！」のかけ声に応じて下さったランナーの皆様に感謝です。おいしいイチゴに凍らせたゼリー用意するから、また来てな〜
看護師 佐藤 裕子

スタミナ不足？でした、後半ぼろぼろで目標達成できず残念でした。
診療放射線技師 猪龍 浩司

今年は天候にも恵まれ快適に走れました。来年は、サブ5目指して、練習頑張りたいと思います。
臨床検査技師 多田 浩章

昨年の雪辱を果たすことができました。来年も頑張りたいと思います。
用度 藤元 圭一

今回が2回目で8年ぶりのマラソンでした。前は2度とやるかと思いついて走っていましたが、今回は楽しみながら最後まで走りきることができました。
医師 渡口 誠

フルマラソンは2回目の挑戦でした。42.195キロの旅は、なかなか思い通りにはいかないもので…。目標に向かって修行します。
臨床検査技師 高松 典通

毎回朝早くから応援していただきありがとうございます。
施設庶務 澁谷 正和

3回目の参加！一番楽しく走れました！
診療情報管理士 辰己 奈月

伸び悩みです。がんばります。
臨床工学技士 露口 達也

今年は10回記念大会。ランナー・応援ともに最高でした！35km過ぎの病院スタッフのエイドに救われました(感謝)。
臨床工学技士 萩原 雄一

昨年とタイムがほぼ同じでした…。次回こそは現状維持ではなく、縮められるよう頑張ります。
診療放射線技師 佐木 山 薫

怪我していたので最後まで走れるか不安でしたが、何とかゴール出来ました。応援していただけて、本当に嬉しかったです。
看護師 安田 佳恵

あとがき
今回のとくしまマラソン2017は10回目となる節目の年でした。川島会 遊走会の青いユニホームに袖を通し、初参加から皆勤賞ランナーまで無事に走りきることができました。これもひとえに応援してくださった方々のおかげです。まことにありがとうございました。

広報委員/麻 裕文(臨床工学技士)

いろんな方の声援を受け(時には川島病院頑張れ、と声をかけてもらったり)苦しいながらも楽しく完走できました。42.195km走った後の完走うどんは最高においしかったです(笑)
クラーク 山本 雅子





徳島の夏の風物詩といえば、言わずと知れた阿波踊り。毎年、8月12日〜15日に徳島市で開催され、県内外から観光客が集まり、最も徳島全体が賑わう時期ですね。

川島病院連も2011年に発足し、今年ではや7年目となりました。5月から練習を開始し、今年も娯茶平さんに基礎から踊り方を教えて頂きました。

川島病院連は、今年は8月13日に海外（アメリカ）からのゲストもお招きし、総勢113名で参加しました。白衣や制服から法被と浴衣姿に変身し、藍場浜演舞場と紺屋町演舞場へ！当日の広々とした会場で娯茶平さんの鳴り物に合わせて、普段はさまざまな部署で働いている仲間たちと一体となり、一緒に踊れて最高に楽しかったです。

阿波踊りのフレーズに「踊る阿呆にみる見る阿呆、同じ阿呆なら踊らなそんな」とあるように実際に踊ると楽しさが倍増で、見ていた人たちも阿波踊りの鳴り物の音に浮足立って、連に入っているところも一緒に踊ってしまえるところも阿波踊りの魅力ですね。

来年も川島病院連はさらに練習をつんで、楽しく活気溢れる踊りを披露できるように頑張ります。

広報委員／堀本愛（看護師）

阿波踊り



阿波踊りに初参加!

高知出身で阿波踊りは今年初めて参加させて頂きました。二歳の娘と一緒に出場する事ができ、夏の楽しい思い出となりました。娘にも貴重な経験となりました。そして、踊る事で職員との交流も出来、新人の私自身にも嬉しい楽しい阿波踊りになりました。ありがとうございました。また来年も踊りたいです。



臨床検査技師 中岡 加奈子



初めて演舞場で踊りました。楽しかったです(=^_^=)

看護師 川人 優希
看護師 真鍋 佳那子
看護師 吉田 南風

阿波踊り初心者ですが、娯茶平さんの丁寧なご指導のおかげで練習の度に踊るのが楽しくなりました。勤務後の練習は体力的につらい時もありましたが、すがすがしい達成感を体験する事ができました。今回川島病院連に入り、暑い夏の思い出ができて本当によかったです。



臨床工学技士 小賀野 和宏



アメリカから参加のプリアナさん 私は、小さい頃バレエを習っていました。今回、徳島で“阿波踊り”に参加することができて楽しかったです。

川島会 バレーボール部



～感謝～

川島会バレーボール部の活動も3年目を迎えました。徳島県実業団連盟主催の大会に通算7回出場。初めて参戦した時は初戦敗退でしたが、その後は毎週水曜日2時間の練習を積み重ね、大会時は理事長夫妻や多くの方々の応援のおかげもあり、準優勝4回・優勝2回と確実に実力も付いてきたと実感しております。他企業チームや実業団連盟の方とも顔なじみとなり、たわいのない話をしたり、練習試合を計画したりとたくさん交流も増えました。また、患者さんからも「バレーしよるんやな」「がんばりよ」と励ましの声を頂き、本当に感謝しております。ありがとうございます。メンバーも徐々に増え、今年入職した人も早速7月2日に行われた米村杯争奪ミックス大会に出場。練習の成果を発揮し、メンバー12名・ベンチスタッフ3名と暑い中駆けつけてくださった方々の応援のおかげで、見事優勝を飾ることが出来ました。川島会バレーボール部の強みは【抜群のチームワーク!!】職場での繋がりがバレーボールに活かされ、バレーボールでの繋がりが職場でも活かされる...そんな相乗効果で充実した日々を送っています。みなさん、今後とも応援よろしくお願い致します。

クラーク/藤澤 真弓

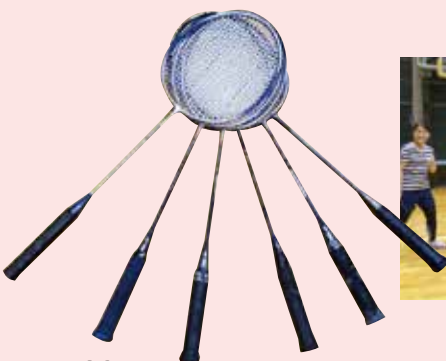


部活・サークル紹介

川島会 バドミントンサークル

月に1度、徳島市立体育館でバドミントンサークルを開催しています。日々のストレス発散と運動不足を解消し、職場や年代を超えて親睦を深めることを目的としている当サークルのモットーは「みんなで楽しく和気あいあい!」です。今回の写真撮影時には、お子さんと一緒に参加してくれた職員もあり、勤務中では見ることのできない「がんばるお父さんの姿」を見て、さらに親近感が増しました。また、部署が違って日頃は会うことの出来ない職員とも、バドミントンを通じて交流を深めることができ、業務の上で大切な「連携を図る」ことにも繋がっているように感じます。まだまだ小規模ですが、今後はもっとたくさんの職員に参加していただけるよう、アピールしていきたいです。

医事・診療情報課/福井 美香



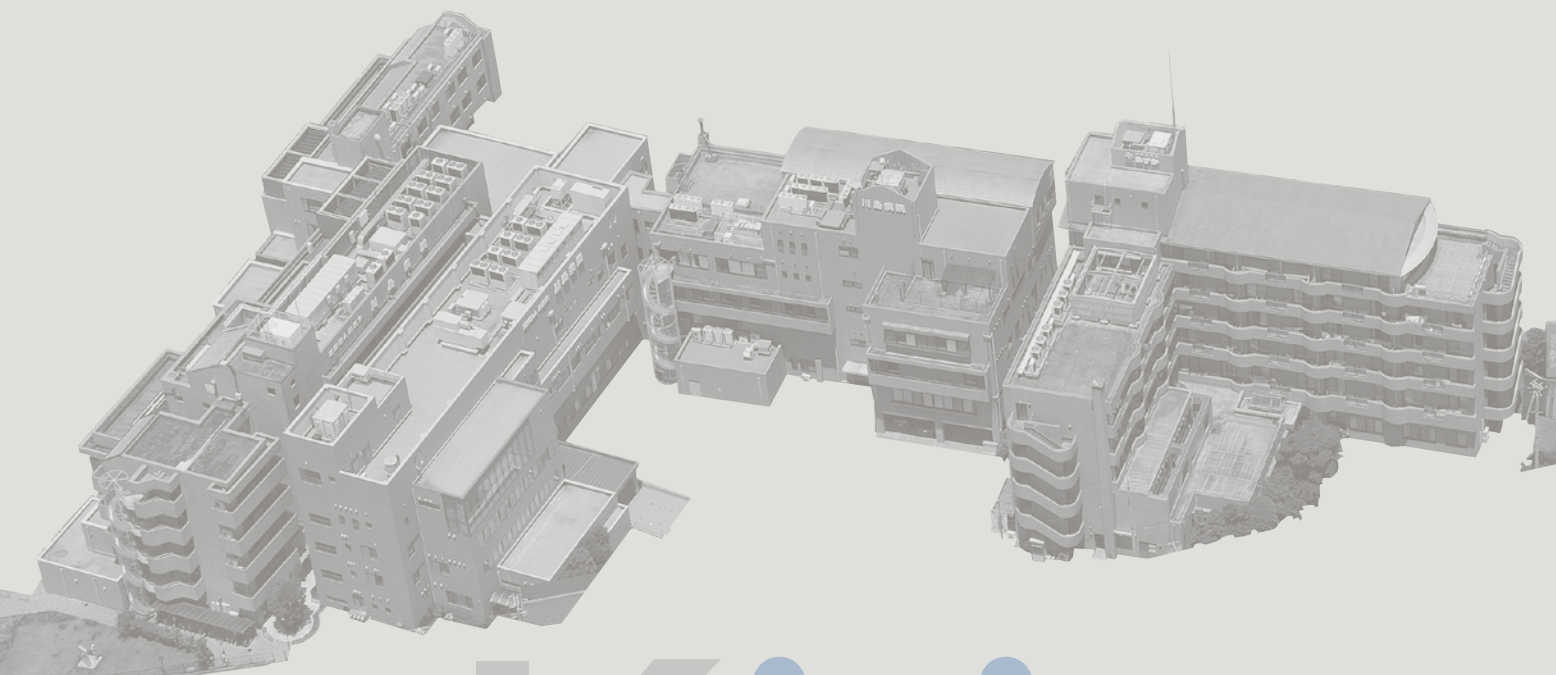
川島病院では、新入職員・在住職員やその家族と親睦を深めることを目的に毎年バーベキュー大会が行われます。今年は台風の直撃が懸念されましたが、職員の明るいパワーのおかげで、快晴での開催となりました。場所は大自然広がる美馬市「四国三郎の郷」です。遠方であるため送迎バスもでており、バスの中は学生時代の遠足のような盛り上がりでした。今年度の参加者は約170人と大人数!みんなで食べるアツアツのお肉や冷たいお酒は最高に美味しかったです。子供たちは水遊びやシャボン玉で元氣いっぱい遊び、じゃんけん大会やスイカ割りも大人も混じってはしゃぎました。普段交流の少ない部署の職員とも、自然と会話が弾み新しい繋がりが生まれました。暑さを吹き飛ばすくらいたくさん食べて喋って、笑って、今年も素敵な夏の思い出ができました。来年もまた多くの方々が参加して、親睦を深めることができますように。

広報委員/吉尾文香(看護師)
山本亜耶(看護師)

川島ホスピタルグループ 2016~2017年 資料編

- プロフィール
- 医師・職員取得資格
- 職員数
- 医師・職員院外団体等役職
- 座長、司会等
- 診療統計等
- 治験、製造販売後臨床試験

広報委員 / 服部 和代



| 主な行事 | 2016年9月~2017年8月

2016

9月

10月

広報誌14号発行
地域連携懇親会



11月

第19回健康・福祉フェスタ

12月

忘年会



2017

1月

防災訓練

2月

第15回川島ホスピタルグループ震災対策会議
職員親睦旅行・国内(劇団四季)



3月

川島ホスピタルグループ研究・活動テーマ発表会
とくしまマラソン



4月

入職式
新入職員オリエンテーション
歓迎会
職員親睦旅行・海外(台湾、パリ)(4月~5月)

5月

職員親睦旅行・国内(北海道)(5月~6月)
KHG懇親会

6月

KHG懇親会



7月

藍住川島クリニック起工式
第7回市民公開講座



8月

職員親睦バーベキュー大会

川島病院連 阿波踊り参加



鴨島川島クリニックのプロフィール(2017年8月1日現在)

■標榜科目

内科、人工透析内科

■指定

保険医療機関、生活保護法、原子爆弾被爆者指定、自立支援医療機関(更生医療指定)、労災保険指定、感染症法38条指定、難病医療指定

■届出事項

透析液水質確保加算2、下肢末梢動脈疾患指導管理加算



鳴門川島クリニックのプロフィール(2017年8月1日現在)

■標榜科目

内科、人工透析内科

■指定

保険医療機関、生活保護法、原子爆弾被爆者指定、自立支援医療機関(更生医療指定)、労災保険指定、感染症法38条指定、難病医療指定

■届出事項

透析液水質確保加算2、下肢末梢動脈疾患指導管理加算



脇町川島クリニックのプロフィール(2017年8月1日現在)

■標榜科目

内科、人工透析内科、糖尿病内科

■指定

保険医療機関、生活保護法、原子爆弾被爆者指定、自立支援医療機関(更生医療指定)、労災保険指定、感染症法38条指定、難病医療指定

■届出事項

透析液水質確保加算2、下肢末梢動脈疾患指導管理加算、在宅血液透析指導管理料、がん治療連携指導料



川島透析クリニックのプロフィール(2017年8月1日現在)

■標榜科目

内科、人工透析内科

■指定

保険医療機関、生活保護法、原子爆弾被爆者指定、自立支援医療機関(更生医療指定)、労災保険指定、感染症法38条指定、難病医療指定

■届出事項

透析液水質確保加算2、下肢末梢動脈疾患指導管理加算、在宅血液透析指導管理料、がん治療連携指導料



阿南川島クリニックのプロフィール(2017年8月1日現在)

■標榜科目

内科、人工透析内科

■指定

保険医療機関、生活保護法、原子爆弾被爆者指定、労災保険指定、感染症法38条指定、難病医療指定

■届出事項

透析液水質確保加算2、下肢末梢動脈疾患指導管理加算



川島病院のプロフィール(2017年8月1日現在)

■標榜科目

内科、腎臓内科(人工透析・腎移植)、泌尿器科(人工透析・腎移植)、循環器内科、循環器外科、糖尿病内科、消化器内科、呼吸器内科、放射線科、リハビリテーション科、歯科、歯科口腔外科、麻酔科、血管外科、脳神経外科、皮膚科

■指定

保険医療機関、救急告示、生活保護法、原子爆弾被爆者指定、労災保険指定、自立支援医療機関(更生医療指定)、感染症法38条指定、難病医療指定、DPC対象、介護保険法、特定健診

■届出事項

歯科外来診療環境体制加算、一般病棟入院基本料(入院基本への加算)看護必要度加算3(重症度12%以上)、入院時食事療養/生活療養(1)、診療録管理体制加算 1、医師事務作業補助体制加算 1 区分25:1、急性期看護補助体制加算、療養環境加算、重症者等療養環境特別加算、栄養サポートチーム加算、医療安全対策加算 区分2、感染防止対策加算2、データ提出加算 区分2、糖尿病合併症管理料、移植後患者指導管理料(臓器移植後)、糖尿病透析予防指導管理料、ニコチン依存症管理料、がん治療連携指導料、薬剤管理指導料、医療機器安全管理料 1、歯科治療総合医療管理料、在宅患者歯科治療総合医療管理料、在宅血液透析指導管理料、検体検査管理加算(I)、検体検査管理加算(II)、時間内歩行試験、ヘッドアップティルト試験、持続測定器加算及び皮下連続式グルコース測定、歯科訪問診療科の注13に規定する基準、CT撮影及びMRI撮影、無菌製剤処理料、心大血管疾患リハビリテーション料(I)、脳血管疾患等リハビリテーション料(III)/廃用症候群リハビリテーション料(III)、運動器リハビリテーション料(II)、呼吸器リハビリテーション料(II)、歯科口腔リハビリテーション料 2、透析液水質確保加算 2、下肢末梢動脈疾患指導管理加算、CAD/CAM冠、ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術、大動脈バルーンパンピング(IABP法)、体外衝撃波胆石破砕術、体外衝撃波尿管結石破砕術、同種死体腎移植術、生体腎移植術、輸血管理料II、輸血適正使用加算、クラウン・ブリッジ維持管理料

■施設認定

日本泌尿器科学会専門医教育施設、日本透析医学会認定施設、日本腎臓学会研修施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本高血圧学会専門医認定施設、日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設、日本腹膜透析医学会教育研修医療機関、日本アフェレンス学会認定施設、日本甲状腺学会認定専門医施設

■その他

地域連携室



医師・職員取得資格

日本医師会認定健康スポーツ医	小松 まち子					
日本甲状腺学会専門医	宮 恵子					
日本消化器病学会認定消化器病専門医	宮 恵子	長田 淳一	曾根 佳世子			
日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医	長田 淳一					
日本肝臓学会認定肝臓専門医	長田 淳一					
日本皮膚科学会認定皮膚科専門医	横田 綾					
日本消化管学会胃腸科認定医	島 久登					
日本動脈硬化学会認定動脈硬化専門医	島 久登					
麻酔標榜医	深田 義夫					
臨床研修指導医	岡田 一義	島 久登				
医療安全管理者	志内 敏郎	萩原 雄一	藤田 都慕	常陸 真由美		
第一種衛生管理者	志内 敏郎					
認定実務実習指導薬剤師	志内 敏郎					
腎臓病薬物療法専門薬剤師	志内 敏郎					
二級臨床検査士	高松 典通					
超音波検査士(循環器・血管)	多田 浩章					
超音波検査士(循環器)	酒井 誠人	中岡 加奈子				
超音波検査士(消化器)	山田 真由美					
第一種放射線取扱主任者	谷 恵理奈					
X線CT認定技師	榎本 勉					
臨床実習指導教員	榎本 勉					
静脈経腸栄養TNT-D認定管理栄養士	大西 嘉奈子					
透析技術認定士	田尾 知浩 数藤 敬一 来島 政広 西内 陽子	道脇 宏行 原 俊夫 森 浩章 八幡 優季	細谷 陽子 清水 一郎 鎌田 優 野口 隼一	廣瀬 大輔 成瀬 裕深 田中 悠作 近藤 郁	中野 正史 東根 直樹 岡田 大佑 福永 輝美	播 一夫 英 理香 相坂 佳彦 新開 美和
3学会合同呼吸療法認定士	英 理香	相坂 佳彦	鎌田 優	田中 悠作	岡田 大佑	西内 陽子
日本心血管インターベンション治療学会 心血管インターベンション技師	東根 直樹	相坂 佳彦				
日本糖尿病療養指導士	大下 千鶴 小谷 明子 原 恵子	小倉 加代子 戸田 己記 浜田 久代	佐藤 裕子 小林 晴美 森 恭子	福壽 悦子 松浦 香織	新谷 紀子 大西 嘉奈子	楳山 祐子
日本腹膜透析医学会指導看護師	西分 延代 酒井 紘子	笹田 真紀 宮下 めぐみ	数藤 ゆかり 楢納 幸子	有木 直美 木内 雄子	小倉 加代子	佐藤 裕子
徳島県糖尿病療養指導士	石野 聡子 木内 雄子	奥谷 晴美 藤本 花恵	近藤 郁 多田 浩章	日根 千鶴 玉谷 高広	福永 輝美 宮本 智彦	宮下 めぐみ
慢性腎臓病療養指導看護師 (旧透析療法指導看護師)	三宅 直美	数藤 康代	小倉 加代子			
レシピエント移植コーディネーター	西川 雅美	秋山 和美				

医師・職員取得資格

日本内科学会認定内科医	川島 周 小松 まち子 岩瀬 俊	水口 潤 橋詰 俊二 島 久登	岡田 一義 高森 信行 田代 学	宮本 弘 宮 恵子 野間 喜彦	西内 健 長田 淳一 島 健二	木村 建彦 曾根 佳世子
日本内科学会総合内科専門医	岡田 一義	長瀬 教夫	木村 建彦	橋詰 俊二	宮 恵子	
日本透析医学会透析専門医	川島 周 島 久登	水口 潤 田代 学	岡田 一義	川原 和彦	横田 成司	西谷 真明
日本透析医学会指導医	水口 潤	岡田 一義	川原 和彦			
日本腎臓学会腎臓専門医	水口 潤	岡田 一義	川原 和彦	島 久登	田代 学	
日本腎臓学会認定指導医	水口 潤	岡田 一義	川原 和彦			
日本臨床腎移植学会腎移植認定医	水口 潤					
日本移植学会移植認定医	水口 潤					
日本糖尿病学会研修指導医	島 健二	小松 まち子				
日本糖尿病学会専門医	島 健二	長瀬 教夫	小松 まち子	宮 恵子	野間 喜彦	
日本老年医学会指導医	島 健二					
日本小児科学会専門医	川原 和彦					
日本泌尿器科学会泌尿器科指導医	横田 成司	西谷 真明				
日本泌尿器科学会泌尿器科専門医	横田 成司	西谷 真明	溝口 翔悟			
日本泌尿器内視鏡学会泌尿器 腹腔鏡技術認定医	横田 成司					
日本がん治療認定医機構がん治療認定医	横田 成司					
日本外科学会外科専門医	深田 義夫					
日本高血圧学会指導医	西内 健	島 久登				
日本高血圧学会専門医	島 久登					
日本循環器学会認定循環器専門医	西内 健	木村 建彦	橋詰 俊二	高森 信行	岩瀬 俊	長瀬 教夫
日本心血管インターベンション治療学会認定医	木村 建彦					
日本心血管インターベンション治療学会専門医・施設代表医	高森 信行					
日本心血管インターベンション治療学会指導医	高森 信行					
日本心臓リハビリテーション学会認定 心臓リハビリテーション指導士	高森 信行					
日本脳神経外科学会脳神経外科認定医	本藤 秀樹					
日本脳卒中学会認定脳卒中専門医	本藤 秀樹					
日本医師会認定産業医	長瀬 教夫	小松 まち子	宮 恵子	曾根 佳世子		
日本人間ドック学会人間ドック 健診情報管理指導士	長瀬 教夫	小松 まち子				
日本人間ドック学会人間ドック認定医	小松 まち子					
日本医学放射線学会放射線診断専門医	日下 まき					
日本内分泌学会内分泌代謝科(内科)専門医	小松 まち子	宮 恵子				
日本内分泌学会内分泌代謝科指導医	宮 恵子					
日本臨床検査医学会専門医	野間 喜彦					
日本内科学会研修指導医	野間 喜彦					

川島 周	徳島県医師会顧問、社会福祉法人徳島県自殺予防協合理事長、徳島大学臨床教授 NPOアリアンスフランセーズ徳島理事長、徳島県赤十字有功会副会長
島 健二	徳島大学名誉教授、日本糖尿病学会名誉会員、日本臨床化学会名誉会員、日本病態栄養学会評議員、徳島県保険者協議会顧問
水口 潤	日本腹膜透析医学会理事長、NPO法人日本HDF研究会理事、NPO法人日本アクセス研究会理事、日本臨床腎移植学会監事 日本移植学会評議員、VAIVT研究会世話人、徳島大学医学部腎臓内科臨床教授、徳島透析医会会長 とくしま移植医療推進財団理事、日本ハイパフォーマンスマンブレン研究会理事長、日本腎不全栄養研究会顧問 四国透析療法研究会監事、徳島透析療法研究会幹事
岡田 一義	日本腎臓学会評議員、日本透析医学会評議員・理事、日本腹膜透析医学会評議員、認定NPO法人腎臓病早期発見推進機構理事 日本慢性腎臓病(CKD)対策協議会理事、日本高齢者腎不全研究会代表世話人、日本腎栄養代謝研究会顧問
西内 健	徳島市医師会心電図判読委員会委員、日本循環器学会四国支部評議員 日本心血管インターベンション治療学会中国四国支部運営委員、日本心臓リハビリテーション学会四国支部評議員
本藤 秀樹	徳島県医師会常任理事、徳島県立中央病院顧問、徳島治験ネットワーク機構理事
長瀬 教夫	独立行政法人国立病院機構東徳島医療センター名誉院長、日本循環器学会四国支部評議員、糖尿病情報学会評議員
小松 まち子	徳島市医師会糖尿病対策委員会委員
野間 喜彦	日本内科学会四国支部評議員、日本糖尿病協会徳島県支部理事、日本糖尿病学会学術評議員 日本糖尿病対策推進会議徳島県担当委員(日本糖尿病学会担当委員、徳島県医師会担当委員) 徳島県医師会糖尿病対策班班長、徳島大学医学部臨床教授、徳島NST研究会幹事、プラス1000歩県民運動促進会会長
宮 恵子	徳島市医師会女性医師プロジェクト委員
川島 友一郎	徳島県歯科医師会地域保健部常任委員、徳島大学歯学部臨床講師
島 久登	東北大学大学院医学系研究科大学院非常勤講師
志内 敏郎	日本腎臓病薬物療法学会理事、徳島腎と薬剤研究会会長、CKD・DVD薬剤研究会会長、徳島県病院薬剤師会理事 YMTM(吉野川・美馬・つるぎ・三好)合同薬剤研究会世話人・幹事、徳島大学臨床准教授、徳島大学薬学部講師
村上 真也	徳島腎と薬剤研究会事務局、CKD・DVD薬剤研究会事務局
原 恵子	徳島NST研究会幹事
松浦 香織	徳島県医療栄養士協議会幹事
高松 典通	徳島大学医学部保健学科非常勤講師
多田 浩章	徳島県臨床検査技師会生理検査研究班副班長、徳島心エコー研究会世話人、一般社団法人日本超音波検査学会地方会委員会委員
猪籠 浩司	徳島CT研究会世話人
赤澤 正義	日本核医学技術学会中四国地方会世話人、徳島核医学研究会世話人
谷 恵理奈	徳島心臓CT・MRI研究会世話人
大石 晃久	日本心臓リハビリテーション学会評議員、日本心臓リハビリテーション学会四国支部幹事・評議員、徳島県心臓リハビリテーション研究会世話役
玉谷 高広	日本心臓リハビリテーション学会四国支部評議員、四国理学療法士学会 査読委員、徳島県理学療法士会 健康増進部員
田尾 知浩	一般社団法人徳島県臨床工学技士会副会長、徳島透析療法カンファレンス幹事
竹内 教貴	公益社団法人日本臨床工学技士会人材活性化委員会中国・四国地区ブロック委員 公益社団法人日本臨床工学技士会人材活性化委員会都道府県Yボード連絡員徳島県担当 中四国臨床工学技士会連絡協議会若手委員、一般社団法人徳島県臨床工学技士会理事 一般社団法人徳島県臨床工学技士会若手委員会委員長
大下 千鶴	徳島県立総合看護学校准看護学科講師・第一看護学科講師、徳島糖尿病看護研究会幹事 徳島県看護協会ナースバンクプロジェクト委員、日本准看護師連絡協議会理事
三宅 直美	徳島腎不全看護研究会幹事
西谷 千代子	徳島県立総合看護学校准看護学科講師
数藤 康代	徳島腎不全看護研究会幹事・事務局、徳島透析療法カンファレンス幹事、日本腎不全看護学会透析療法指導看護師徳島県代表
小倉 加代子	徳島CDEJ会世話人
佐藤 裕子	徳島CDEJ会世話人

インターベンション エキスパートナース	松田 幸子						
日本認知症ケア学会認定認知症ケア専門士	宮里 依子						
日本心臓リハビリテーション学会認定心臓リハビリテーション指導士	大石 晃久 三好 友美						
日本理学療法士協会認定指定管理者(上級)	大石 晃久						
日本理学療法士協会認定地域包括ケア推進リーダー	大石 晃久						
日本理学療法士協会認定介護予防推進リーダー	大石 晃久						
日本ウォーキング協会認定健康ウォーキング指導士	玉谷 高広						
日本ウォーキング協会認定公認ウォーキング指導士	玉谷 高広						
嚥下トレーナー歯科衛生士	高石 和子 山崎 明香 藤倉 みき						
認定歯科衛生士(認定分野A:摂食嚥下リハビリテーション)	高石 和子						
認定歯科衛生士(認定分野A:糖尿病予防指導)	高石 和子						
社会福祉士	山崎 明香 薦田 茜 藤倉 みき						
診療情報管理士	宮島 彰子 原 雅子 辰己 奈月 木村 明美						
医師事務作業補助者	辰己 奈月 森本 麻友美 近藤 由紀子 藤澤 真弓 香川 泰子 秋田 悦代 藤田 豊子 細田 真帆子 井上 有貴子 俵谷 迪子 祖父江 仁美						
医療情報技師	藤田 諭 末包 博人						

職員数 2017年4月1日現在 注:()内は2016年4月1日現在

<p>■社会医療法人川島会 職員数合計／537名(505)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●常勤医師／30名(24) ●看護師／128名(111) ●看護助手／65名(66) ●診療放射線技師／12名(10) ●医事診療情報課／32名(32) ●施設・庶務課／20名(20) ●歯科医師／2名(2) ●准看護師／21名(26) ●薬剤師／12名(10) ●臨床工学技士／58名(52) ●クラーク／41名(38) ●訪問介護員／6名(6) ●非常勤医師／55名(53) ●パート看護師／2名(2) ●管理栄養士／8名(8) ●理学療法士／7名(7) ●総務課／16名(17) ●パート准看護師／8名(8) ●臨床検査技師／10名(8) ●歯科衛生士／4名(5)
<p>■社会福祉法人飛鳥 職員数合計／47名(49)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●施設長／1名(1) ●介護職員／9名(10) ●サービス提供責任者／2名(2) ●管理者／3名(3) ●生活相談員／3名(2) ●訪問介護員／16名(15) ●介護支援専門職員／5名(6) ●栄養士／1名(2) ●医療ソーシャルワーカー／2名(2) ●看護師／4名(4) ●事務員／1名(2)

外来患者延数 ■ 歯科患者延数 ■ 入院患者延数 ■ 新入院患者数

外来患者延数	歯科患者延数	入院患者延数	新入院患者数
51,838名(46,311)	10,072名(8,029)	31,852名(31,091)	1,890名(1,853)

血液透析患者数(3月31日現在)

川島病院	川島透析クリニック	鴨島川島クリニック	鳴門川島クリニック
51名(59)	551名(539)	145名(149)	115名(118)
脇町川島クリニック	阿南川島クリニック	在宅透析	合計
108名(108)	25名(13)	4名(3)	999名(989)

延べ回数

川島病院	アフエレーシス	川島透析クリニック	鴨島川島クリニック
14,351回(13,862)	68回(104)	82,346回(81,598)	22,121回(21,833)
鳴門川島クリニック	脇町川島クリニック	阿南川島クリニック	合計
18,010回(18,009)	16,017回(15,086)	2,973回(287)	155,886回(150,779)

透析患者数

	新規導入患者数	患者数
HD	90名(76)	995名(986)
PD	11名(18)	90名(92)

腎移植患者数 ● 患者数 / 62名(58) (3月31日現在)

主要処置・検査件数

消化器内視鏡	CT	冠動脈CT	シャントPTA
853件(937)	4,123件(4,031)	443件(393)	399件(324)
腎生検	心カテ/PTCA	RI	MRI
52件(52)	296件(295)	324件(487)	1,467件(1,008)
心エコー	骨密度	嚥下内視鏡	
2,527件(2,272)	950件(930)	32件(35)	

手術件数

手術総数	結石破碎	シャントPTA	ペースメーカー植え込み
1,528件(1,460)	102件(87)	399件(324)	17件(21)

栄養指導件数 ● 指導件数 / 1,509件(2,898)

水口 潤	CKD血管障害研究会	座長	2016.2.6
	第31回日本ハイパフォーマンス・メンブレン研究会 優秀演題	司会	2016.3.12
	第49回日本臨床腎移植学会シンポジウム	司会	2016.3.24
	PD accessミーティング	司会	2016.5.29
	第61回日本透析医学会シンポジウム	司会	2016.6.10
	第61回日本透析医学会ワークショップ	司会	2016.6.11
	第61回日本透析医学会教育講演	座長	2016.6.12
	第61回日本透析医学会ランチョンセミナー	司会	2016.6.10～11
	第4回腎不全栄養研究会 特別講演	座長	2016.6.26
	第14回高齢者腎不全研究会 ランチョンセミナー	司会	2016.7.17
	徳島透析学術講演会	司会	2016.7.28
	徳島腎臓学術講演会	司会	2016.8.11
	透析と腎臓病Expert Forum	座長	2016.8.18
	第34回国際血液浄化学会State of Art Lecture	座長	2016.9.9
	第22回日本腹膜透析医学会 ランチョンセミナー	司会	2016.9.25
	第22回日本腹膜透析医学会特別講演	司会	2016.9.25
	第22回日本HDF研究会学術集会・総会 ランチョンセミナー	司会	2016.10.1
第22回日本HDF研究会学術集会・総会 基礎セミナー	座長	2016.10.1	
腎不全とリン管理を考える会	司会	2016.10.18	
第19回在宅血液透析研究会 ランチョンセミナー	司会	2016.10.22	
第20回日本アクセス研究会	座長	2016.11.12	
第1回I-HDF研究会:基調講演	司会	2016.12.11	
西内 健	第11回徳島心臓リハビリテーション研究会	座長	2016.5.30
	Prasutrel Forum in Tokushima 2016	座長	2016.9.9
	Hypertension Meeting 2016 徳島	座長	2016.9.16
	第4回徳島市抗凝固療法を考える会	座長	2016.9.30
	Diabetes Conference in Tokushima	座長	2016.10.3
高森 信行	第23回日本心血管インターベンション治療学会(CVIT)中国・四国地方会	座長	2016.9.3
川島 友一郎	第58回全日本病院学会	座長	2016.10.8
志内 敏郎	第55回日本薬学会・日本薬剤師会・日本病院薬剤師会 中国四国支部学術大会	座長	2016.11.6
	第10回日本腎臓病薬物療法学会学術集会・総会	座長	2016.11.20
田尾 知浩	内視鏡・透析室感染対策セミナー	座長	2016.9.24
道脇 宏行	第31回日本ハイパフォーマンス・メンブレン研究会	座長	2016.3.13
	第22回日本HDF研究会学術集会・総会	座長	2016.10.1
竹内 教貴	第47回徳島透析療法研究会	座長	2016.11.27
	第6回中四国臨床工学会	座長	2016.12.3
田中 悠作	第22回日本HDF研究会学術集会・総会	座長	2016.10.1
大石 晃久	第22回日本心臓リハビリテーション学会学術集会	座長	2016.7.16
西本 篤史	第27回徳島県理学療法士学会	座長	2016.10.16
数藤 康代	第61回日本透析医学会学術集会・総会	座長	2016.6.12
萩原 順子	第47回徳島透析療法研究会	座長	2016.11.27



編集後記

先日、80歳代の患者さんから、日頃の診療に対するお礼のお手紙を頂きました。
内容はもちろん、一生懸命に便箋へ書いて頂いた文面に胸を打たれました。

LINE、Facebook、Twitter、Instagram・・・
伝える形はかわっていきませんが、
自分の言葉で相手に思いを届けることは
私たちが決して忘れてはいけないことだと、
再認識いたしました。

広報誌はこれで15冊目となりました。
還暦に近い川島病院の長い歴史の中では、まだ高校生というところですが。
今年も本当にたくさんの力によって、発行する事ができました。
ご協力いただきました皆様に感謝いたします。
特に、広報誌チームのみんなに、最大級の賛辞を。

広報委員長 川島 友一郎

診療統計等(2016年4月～2017年3月 注:()内は前年同期)

■糖尿病教室 平成28年7月2日 「糖尿病について語り合おう」 参加者10名
平成29年3月11日 「糖尿病について語り合おう」 参加者12名

■リハビリ件数 ●個別／14,858件(14,807) ●消炎／0件(3)

■リハビリ講座 平成28年10月20日 「転倒予防のススメ～転ばない環境と身体作り～」 参加者10名
平成28年12月15日 「心臓病を予防しよう～原因と予防のための運動実践について～」 参加者12名
平成29年2月16日 「生活習慣病対策の運動について」 参加者7名

■ケアハウスあすか入居者数(延べ実利用者数) 597件(598)
■デイサービスセンター利用者数(延べ) 7,742件(7,668)
■ヘルパーステーション利用者数(延べ実利用者数) 1,079件(1,050)
■在宅介護支援センター計画数(延べ実計画数) 2,381件(2,191)
■相談支援事業 1,200件(1,034)
■介護タクシー利用者数(延べ) 286件(289)

治験、製造販売後臨床試験／2016年1月～12月

■治験 ●川島病院 第Ⅲ相試験 2件
第Ⅱ相試験 1件
●川島透析クリニック 第Ⅲ相試験 3件
第Ⅱ相試験 1件
医療機器 1件

■製造販売後調査 ●川島病院 9件